

初めまして。2022年5月30日から6月24日までの1ヶ月間、外科で実習させて頂きました、宮下留璃と申します。私は将来外科に興味があり、三沢病院は手技を多く実習させて頂けるとい先輩からの話を聞いて実習先として希望させて頂きました。実際に、回診ではガーゼ交換や抜鉤、ドレーンの抜去、術野では糸結びや埋没縫合、内視鏡のカメラ操作、開腹操作など本当にたくさんの手技を経験させて頂きました。

大学病院の第二外科の実習では乳腺・甲状腺グループを回り、消化管の手術は見学したことがなかったため、三沢病院で消化管の手術にたくさん入らせて頂き、大変勉強になりました。初めの1週間は恥ずかしながら術式についてほとんど予習しないまま手術を見学しており、先生方からの質問にもほとんど答えられませんでした。先生方や6年生の先輩から実習の取り組み方について指摘を頂き、そこから参考書で次の日の手術の流れや解剖について予習したり、患者さんのカルテや画像を見てから手術に入るようになり、頭で理解したことを実際に見ることで生きた知識として定着していくのだということを実感しました。今までの座学とは違い、臨床実習においては自分がどれだけ目の前のことを理解しようとするか、積極的に取り組むかで、身につく知識の量と質が変わってくるのだということを感じ、自らの臨床実習への取り組み方を見直すきっかけとなりました。

先生方から教えて頂いたことで一番印象に残っているのが、次は自分がやるとして見学する、という心がけです。やらせて頂いたどの手技も、それまで何回も先生方の操作を見学してきたのに、いざ自分がやるとなると思うようにいかず、もたついてしまうことばかりでした。特に最終週に任せて頂いた開腹操作では、先生方の操作を何度も見学し、手順をしっかりと予習して臨んだつもりでしたが、いざ道具を持つと緊張やうまくできないかもしれないという不安で全く思うようにいかず、結局先生に次の操作を逐一指示して頂きながら何とか開腹できた、という有様でした。次はどこを切る、何を出す、という手順は理解していても、メスの持ち方、電気メスの動かし方、助手への指示など、実際の手順のイメージが全くできていなかったことを痛感させられた体験でした。患者さんは練習台じゃない、一つ一つの手技を一から十まで教えてくれる指導医はいない、やらせてもらえる機会はチャンスだと思って逃しちゃいけない、次は自分がやるんだと思って手技を見学することが大事、という先生方のお話が、うまくできなかった悔しさと共にとても印象に残りました。

私に準備不足や手技の手際の悪さがあったにも関わらず、外科の先生方は決して厳しく叱りつけることなく、大変親身に指導して頂きました。また病院全体で挨拶の文化が浸透しており、医師同士だけでなくコメディカルの方々との和気あいあいとした雰囲気が大変印象的でした。6年生の選択実習でも、またぜひ三沢病院の外科で実習させて頂きたいと思います。

最後に、外科の松本先生、池永先生、澤野先生、板矢先生、看護師の皆さん、事務の方など全ての職員の方に感謝致します。本当にありがとうございました。また、担当させて頂いた患者さんにも大変感謝しております。今回の経験を活かし、立派な医師になれるよう頑張っていきたいと思っております。

1ヶ月間ありがとうございました。



期間：2022.5.30~2022.6.24